

公報

○太政官就外 官省院廳府縣 外務卿井上馨不在中特別ヲ以テ外務大輔吉田澤成ニ代理被 仰付候條爲心此旨相達候事 明治十七年十一月七日 太政大臣 三條實美

時事新報

政治ハ其性質ヲ見テ是非ヲ斷ス可ラズ

近來西洋ニ政治新論アリ其大意ニ云ク政府タルモノハ固ヨリ 憲制ヲ行フ可ラズト雖モ人ノ心ノ同シカラザルコト其面ノ 如クナルモノヲ集メテ一社會ト爲シ每人ノ満足セシメント 之ヲ以テ憲法トシテ是ニ於テカカ様々ニ手段ヲ工風ニ就 國民中ヨリ代議士ヲ撰擧シテ政事ヲ議セシメテ之ヲ以テ公 平ノ場合ニ至ラン然レテ國會ニ權力ヲ附シテ所謂民衆政 體ニ爲シタルモノアリ例ヘバ英國米國又近年ノ佛國ノ如キ是 ナリト雖モ此政體ガ決シテ公平ナルモノニ非ズト申スハ初 其代議士ヲ撰擧スルハ人民ノ不注意無賴者ナルハ勿論ノコト 也且凡庸愚人共ノ眼ヲ以テ智者ヲ鑒定ス可キコト非ズ長 幸ニシテ才智活潑ナル人物ヲ撰得テリトスルモ其人 物ガ當擧ノ後必ズ之ヲ深切ニ盡シテ可トモ思ハレ 先ノ心頭ニ掛ルモノハ一身ノ功名榮譽ニシテ都合ニ由リ 如何ニ爲ルモ其事實ヲ作シ人民ノ利害ヲ勝テ次第ニ左右ス ルアルガ故ニ其事實ヲ云ヘバ撰擧人等ハ最初ヨリ己レヲ 空クシテ代議士ニ打任セ、當局者一個ノ隨意ニ事ヲ議セヨ ト己レノ權利ヲ投ケ出シタルモノニ異ナラズ其性質ニ公平 ナリト云フ可ク尙其上ニモ代議政治ノ不利ハ代議士等ガ國 事ノヲメニ身ヲ投スルニハ非ズシテ身ヲメニ國事ヲ利用 國事ノ爲ニ居テ我意ヲ行フノ事情多キガ故ニ針小ノ利害 ナク實ニ國ノ大計ヲ妨ケ一論一駁小兒ノ戯ヲ以テ時日 空費シ國財ヲ失ヒ事機ヲ誤ルコト少ナカラズ迂濶ナリト云 フ可ク

代議政治ハ外ニ公平ノ名ヲ賣リテ内ニ壓制ノ不平ノ實ヲ含 ン、國ノ人民活潑ト稱シテ政府ノ舉動ハ甚テ遲鈍ナリ之ニ 反シテ君主政治ハ明君實相ノ英斷ヲ以テ事ヲ處シ君相ノ心 恰モ天下ノ公議輿論ヲ寫出シテ國民ノ多數ヲ代表スルガ 故ニ民利國益ヲ謀リテ深切ナラザルハナシ左レトナシ萬民 ノ多キ一ヨリ萬ニ至ルマデ殘リナク満足ヲ得セシム可キコト 非ズシテ本來政治ノ性質ニ於テ免カレ得ザルモノナレバ 其眞政時トシテ公平ノ實ヲ失フテ壓制ニ似タルモノアルモ其 壓制ヲ總理ノ存スルモノアリテ代議政治ニ於ケル小兒ノ戯 非ズ蓋シテ其自カラ奉リテ下民ノ膏血ヲ絞リテ若修ノ用ニ 供スルナリト云フハ往古野蠻ノ壓制、俗ニ所謂壓制ノ野蠻 ナルモノニシテ今ノ開明ノ世ニ通用ス可ラズ故ニ代議政治 君主政治モ共ニ壓制ハ免カレ得ザルモノトシテ代議政治ニ 壓制ハ簡單ニシテ其出處一ナリ代議政治ノ壓制ハ複雜ニシ テ本國一ナラズ或ハ之ヲ許シテ一國ノ命ニ從フト多君ノ制 受ルトノ相違アルモノト云フ可ナリ自由ノ人民ハ一君 一帝ニシテ且時ヲ不守テ不守テ不守テ不守テ不守テ不守テ 上ニ於テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ 學ヲ修ムルニテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ 於テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

ノ遲延不活潑ニ比シテ萬々同日ノ論ニ非ザルカリ云々 以上ハ政治新論ノ大意ノ又其概略ニシテ目録トモ云フ可キ モノナリ且コノ論說特ニ近代ノ發明ニモ非ズレドモ昨今歐洲 於テ獨逸地地利ヲ中央トシテ其近方ニ漸ク流行スルヲ以 テ新論ノ名ヲ附スルノニ抑モ政治學ハ學問ニ非ズ天然ノ異 理原則ヲ根據ニシテ世界古今同一ノ因ヲ以テ同一ノ果ヲ致 水ノ常ニ低ニ就キ火ノ常ニ炎上スルガ如キ實物ノ性質ト 働トテ論ヲ其微妙ノ部分ニ至ルモ會テ誤ルコトナキモノ之 學問ト名ヅクト雖モ政治ハ古今ニ異ナリ各國ニ同クカテ 其人民ノ習慣ニ由リ其爲政ノ人物ニ從ヒ何レテ便利トシ 何レテ不便利トス可ラズ同一ノ政治ヲ施シテ同一ノ成績ヲ 見ズ、彼一行フテ利アルモ此ニ施シテ害ヲ爲スノ例ハ古今 比々皆是ナリ例ヘバ露ノ政ヲ英ニ施シ米ノ法ヲ支那ニ用ル ガ如キ必ズ不利ナラン或ハ獨相「ビスマルク」公ノ政略ヲ 蘇レテ之ヲ他國ニ寫シ行ハントシテ其國ニ獨相ト「ビスマ ルク」公アラザレバ蒸氣機關ノ働キ見テ之ニ必ズ同機關ハ 買入レテ石炭ヲ忘レルガ如ク政治ハ決シテ學術ニ非 ザルナリ蓋シテ此政治新論ヲ實施シテ大ニ其功ヲ奏セタルハ 獨逸國ニシテ上ニ「ウヰキリヤム」皇帝ノ英明アリ輔ルニ「ビ スマルク」公ノ智勇ヲ以テシテ高橋ニ如クナラザルハナ 全國兵ノ制度ハ益嚴ニシテ四隣ノ毒キ丁抹ヲ克ク據地利 ヲ破リ其餘勢遂ニ佛蘭西征伐ノ大舉ト爲リ國帝ヲ擡シテ 二州ノ地ヲ割リ歐洲ノ大陸向テ所ニ敵ヲ見ズ、外政ノ盛ナ ルト斯ノ如クシテ内治亦忘ルニ非ズ學問ノ事、商工ノ業 近年著ク進歩ノ實効ヲ呈シテ他國ヨリ爭フコト能ハザルモノ 多ク世論或ハ之ヲ目シテ壓制政治ト稱シ口頭筆端ニ攻撃少 ナカラズト雖モ俗ニ所謂論ニ「實權」ニシテ近時ノ獨逸ニ富 國強兵ノ實證アルト如何セン是ニ於テカ彼ノ民衆政治ニ有 名ナル英國米國ノ如キハ獨逸ニ對シテ兵馬ノ戰爭コソナケ レバ政治上ノ主義ニ於テハ全ク反對ノ位ニ居テ氷炭相容レ ザルモノ、如ク例ヘバ本年春獨逸ノ國會議員ニシテ自由政 治論者ナル「ラスカ」氏ガ米國ニ死去セタルト米ノ國會議 院ハ弔慰ノ意ヲ表シテ公書ヲ獨逸政府ニ寄送セシ「ビスマ ルク」公ハ大ニ怒ケテ之ヲ拒絶シタルアリ又獨逸國ニ三 帝ハ何事ヲ談話スルコト敷、近來每度會同スル其會席ニ英 皇ハ會テ之ニ參カラザルノニシテ米政府ニテハ政權擴張 ト稱シ國會議員撰擧ノ區域ヲ廣クシテ其權限一層ノ下流 ンマデ及ハサントスルハ益民政ノ主義ヲ執テ斷カザルモノ ナラン君主政治ト民衆政治ト我輩固ヨリ其孰レカ是ナルト 知クズ是非ハ唯其人ニ存シ其習慣ニ存スルモノト云フ可キ 一ニ獨逸帝政ノ富強ハ今帝ト宰相トノ人物ニ由リ、英米民 政ノ繁榮ハ其習慣ノ致ス所ナリ故ニ他山ノ石ニ玉ヲ攻メテ 自國ノ政ヲ改良セント欲スル者ハ自國ニ獨逸ノ君相ヲ得テ 始メテ獨逸ノ政ヲ行フ可シ、自國ノ時運英皇ニ類スルヲ見 テ始メテ英米ノ政ヲ學ブ可キナリ

○十月廿七日日領事館 觀劇府中ノハイド、パークニ於テ十 萬人順序よく政治上ノ集會を爲し上院の廢止を主張せる議 決を爲せり

電報

○工部政府の決定 一時六日東京の電報を讀みしに、

清事

○十月廿七日日領事館 觀劇府中ノハイド、パークニ於テ十 萬人順序よく政治上ノ集會を爲し上院の廢止を主張せる議 決を爲せり

清事

○十月廿七日日領事館 觀劇府中ノハイド、パークニ於テ十 萬人順序よく政治上ノ集會を爲し上院の廢止を主張せる議 決を爲せり